

# 鳥取県立図書館所蔵の往来物資料について

## —目的別と出版地域別の分類整理—

### Investigation report on "OURAIMONO" documents of Tottori Prefectural Library possession: A study based on the publication place and the purposeful classification analysis

郡 千寿子\*  
Chizuko KOHRI\*

#### 要 旨

鳥取県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要を報告する。和本のみの目録はなく、『鳥取県立図書館 和漢籍分類目録—鳥取県立鳥取図書館旧蔵—』<sup>1)</sup>『鳥取県立鳥取図書館 郷土資料目録 昭和54年3月31日現在』<sup>2)</sup>により調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、28本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来が5本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来が1本、消息科往来が14本、地理科往来の所蔵がなく、歴史科往来が3本、産業科往来が3本、理数科往来の所蔵はなく、女子用往来が2本という結果であった。出版地域別の分類では、江戸が6本、京都が10本、大坂が3本で、不明が9本という結果であった。地理的に近い京都の出版が最多であり、関西圏からの影響が大きかったことが予想される。しかし、江戸の出版は、大坂より多く、不明が9本存在することを合わせて考えると、江戸文化圏からの影響が必ずしも少ないとはいえないであろう。すでに公表している鳥取県立図書館での調査結果との比較検討も行い、地域の偏在状況や格差についてもグラフ化して提示した。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、鳥根に次ぐ山陰地域の調査地点である。従来、山陰地域の往来物資料は『往来物解題辞典』でも記載が少なく、調査の空白地帯であった。今後、他地域の状況と比較する上で基盤となる調査の一報である。

キーワード：山陰、鳥取、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

#### 1 研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究<sup>3)</sup>をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の調査研究<sup>4)</sup>を発端に、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かったと予測される、北陸地域にも調査対象<sup>5)</sup>を拡げて研究成果を公表してきた。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、山陰地域の調査<sup>6)</sup>も開始しているが、本稿では、鳥取県立図書館所蔵の資料について報告する。

---

\*弘前大学教育学部国語教育講座  
Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

## 2 調査方法

従来すすめてきた所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地別に分類整理<sup>7)</sup>して、地域ごとの特徴について今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

基本的に従来の調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の記載内容については、『国書総目録』<sup>8)</sup>および『古典籍総合目録』<sup>9)</sup>と『往来物解題辞典 解題編』<sup>7)</sup>によって確認検討した。

## 3 調査結果

和本のみの目録はなく、『鳥取県立図書館 和漢籍分類目録—鳥取県立鳥取図書館旧蔵—』<sup>1)</sup>『鳥取県立鳥取図書館 郷土資料目録 昭和54年3月31日現在』<sup>2)</sup>により調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、28本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来が5本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来が1本、消息科往来が14本、地理科往来の所蔵がなく、歴史科往来が3本、産業科往来が3本、理数科往来の所蔵はなく、女子用往来が2本という結果であった。

出版地域別の分類では、江戸が6本、京都が10本、大坂が3本で、不明が9本という結果であった。地理的に近い関西圏からの流入が、京都と大坂、合わせて13本であり、江戸の6本より多く、約2倍であった。出版地域が不明の資料も9本あることを考え合わせると、関西圏と江戸との差を大きいとみることは慎重であるべきかもしれない。しかしながら、京都の出版が10本と最多であることは確認でき、地理的に近い関西文化圏からの影響の大きさは確認できたといえよう。

### 3-1 目的別分類について

教訓科往来に分類した資料<sup>10)</sup>は、『実語教童子教』〈資料コード110604371〉、『実語教童子教』〈資料コード11604348〉、『実語教童子教』〈資料コード110604354〉、『童子往来万福宝蔵』〈資料コード117496930〉、『大全童子往来』〈資料コード117496880〉の5本である。

社会科往来は所蔵が見当たらず、語彙科往来に分類した資料は、『小野篁歌字尽』〈資料コード117456933〉の1本である。

消息科往来に分類した資料は、『庭訓往来』〈資料コード117456171〉、『庭訓往来』〈資料コード117474205〉、『庭訓往来』〈資料コード117496715〉、『庭訓往来』〈資料コード117496921〉、『庭訓往来講釈 上下』〈資料コード117506271〉〈資料コード117506280〉、『庭訓往来註 上下』〈資料コード117496533〉〈資料コード117496723〉、『庭訓往来註抄』〈資料コード117456007〉、『文章往来』〈資料コード117458228〉、『文章法則 消息往来』〈資料コード110604321〉、『童訓往来新大成』〈資料コード117456023〉、『消息文例集』〈資料コード117498480〉、『年中用文章 上下』〈資料コード117452486〉〈資料コード117452494〉、『雅俗要文』〈資料コード117498449〉、『ふみのうはがき』〈資料コード117496491〉の14本である。

地理科往来は所蔵がなく、歴史科往来に分類した資料は、『古状揃』〈資料コード117502958〉、『万宝古状揃大全』〈資料コード117469852〉、『童宝古状揃』〈資料コード117468367〉の3本である。

産業科往来に分類した資料は、『商売往来』〈117458003〉、『商売往来』〈117502933〉、『諸職往来』〈資料コード117502966〉の3本である。

理数科往来に分類できる資料の所蔵は見当たらなかった。

女子用往来に分類した資料は、『童子往来大全』〈資料コード117496442〉、『通宝用文如意書箱』〈資料コード117498505〉の2本である。

目的別分類では、最も多いのが消息科往来資料の14本で、50%を占めている。次に教訓科往来の5本で約17.8%である。次いで歴史科往来資料、産業科往来資料がそれぞれ3本で、約10.7%となる。女子用往来資料は2本で約7.1%、語彙科往来資料は1本で約3.6%という割合であった。社会科往来資料と地理科往来資料、理数科往来資料は、所蔵が確認できず0という結

果であった。

従来の東北地域<sup>3)</sup>や北陸地域の調査結果<sup>4)</sup>によれば、『庭訓往来』に代表される消息科往来の占める割合が大きい地域が多いという傾向にあった。たとえば、東北地域の弘前市立図書館、山形教育資料館では、消息科往来が最多であり、日本海沿岸の山形の酒田光丘文庫でも女子用往来に次いで消息科往来が多かった。北陸の石川県立図書館は、突出して消息科往来資料が多く、総数34本のうち、20本が消息科往来であり、全体の約59%を占めていた。

目的別に分類した調査結果からみれば、鳥取県立図書館においては、一般的に多いとの印象がある消息科往来が多いことが確認できたといえる。

他方、鳥取県立図書館では、総資料数32本のうち、3本が消息科往来であり、最多は理数科往来の14本であった。理数科往来資料は、比較的少ない資料といわれており、そうした背景の中で、理数科往来資料の所蔵が目立っていたことは興味深い調査結果<sup>6)</sup>であった。目的別分類における、所蔵資料の偏在が、鳥根と鳥取で相違していることは、注目すべき点であるだろう。

鳥取県立図書館の状況について、【グラフ1】に目的別分類資料数を示し、【グラフ2】にその割合を明示した。参考として、所蔵往来物資料総数32本の鳥取県立図書館との比較も行ってみた。①教訓科往来 ②社会科往来 ③語彙科往来 ④消息科往来 ⑤地理科往来 ⑥歴史科往来 ⑦産業科往来 ⑧理数科往来 ⑨女子用往来 について【グラフ3】に整理し、鳥取県

立図書館と鳥取県立図書館の往来物資料の目的別分類の偏在状況を示した。

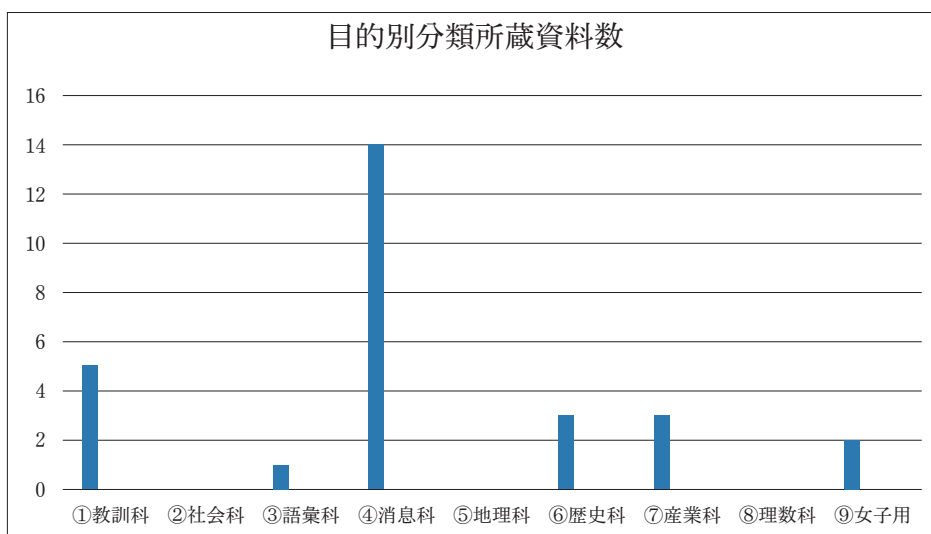
### 3-2 出版地域別分類について

出版地域別の分類では、江戸の出版が6本確認された。消息科往来の『庭訓往来』(資料コード117456171)は、刊行年は不明だが、裏表紙裏部分に「書林 江戸両国橋吉川町 山田佐助」とあり、江戸の出版であることが知られる。当該資料は縦13,8cm、横9,5cmの小型の珍しい豆本である。

『庭訓往来講釈 上下』(資料コード117506271) (資料コード117506280)は、下巻の最終丁に「弘化二乙巳十二月日本橋通三丁目 亀屋文次郎」「嘉永六癸丑年再版 本銀町河岸 山城屋新兵衛」「東都書肆 新華屋町 亀屋文蔵」とある。また裏表紙裏部分には、「東都発行書林」として11軒の書誌名が列挙されている。

『庭訓往来註抄』(資料コード117456007)は、表表紙裏に「御家流 皇都 龍章堂筆」とある。裏表紙裏部分に書肆名が江戸3軒と京都大坂それぞれ1軒の記載が確認できる。「江戸 日本橋通壱町目 須原屋茂兵衛」「同式町目 山城屋佐兵衛」「芝神明所 岡田屋嘉七」「京都 寺町通御瀧上町 鍛屋安兵衛」「大坂 心齋橋通安堂寺町 秋田屋太佐衛門」とあるが江戸出版として分類した。

『文章法則 消息往来』(資料コード110604321)は、裏表紙裏の最終丁に「江戸通油町 鶴屋喜右衛門板」



【グラフ1】

とあり、江戸の出版であることが知られる。

『雅俗要文』〈資料コード117498449〉は、裏表紙裏の最終丁部分に「取次所書林 大坂心齋橋通徒労町角 群玉堂河内屋茂兵衛」とあるが、続いて「江戸本石町十軒店 萬以及堂英 大助」「東叡山御用 御書物行 江戸下谷御成道 星雲堂英文蔵製」と記載が確認され、江戸の出版と分類した。

以上5本は、すべて目的分類における消息科往来資料であるが、産業科往来の『商売往来』〈資料コード117502933〉も、江戸の出版とした。当該資料は、縦17,5cm、横11,5cmの全14丁の豆本である。表紙裏に「東都 松元堂蔵版」とあり、江戸としたものである。出版地域別分類では、京都が10本と最多であった。目的別分類としての内訳でみると、京都出版でも最多は消息科往来の5本である。歴史科往来が2本、教訓科1本、産業科1本、女子用1本という内訳となる。

消息科から紹介してみると、『庭訓往来』〈資料コード117474205〉は、裏表紙裏の最終部分に「弘化三年九月 京都書林 吉野家佐兵衛 榊屋勘兵衛 山城屋佐兵衛」と京都の出版であることがわかる。絵入でない一段本の振り仮名付きの庭訓往来である。

『文章往来』〈資料コード117458228〉は、裏表紙裏の最終部分に「天保十二年 京都書林 めとぎ屋宗八」と刊行年と書誌名が確認できる。

『童訓往来新大成』〈資料コード117456023〉は、裏表紙裏の最終部分に複数の書肆「浪花書林 河内屋喜兵衛」「皇都 栢屋勘兵衛 永田調兵衛」「書房 菱谷友七良 近江屋佐太良 吉野屋勘兵衛 吉野屋甚助」が見えるが、「京都 西川龍章堂書 森川保之画」「文

久元年辛酉年春発行」との記載に基づき、京都出版と分類した。

『消息文例集』〈資料コード117498480〉は、縦18,0cm、横26,0cmの横型の珍しい形状の資料であるが、裏表紙裏に「享保辛巳初秋吉辰 京寺町二条下ル 野田珍兵衛」との記載によって京都出版とした。

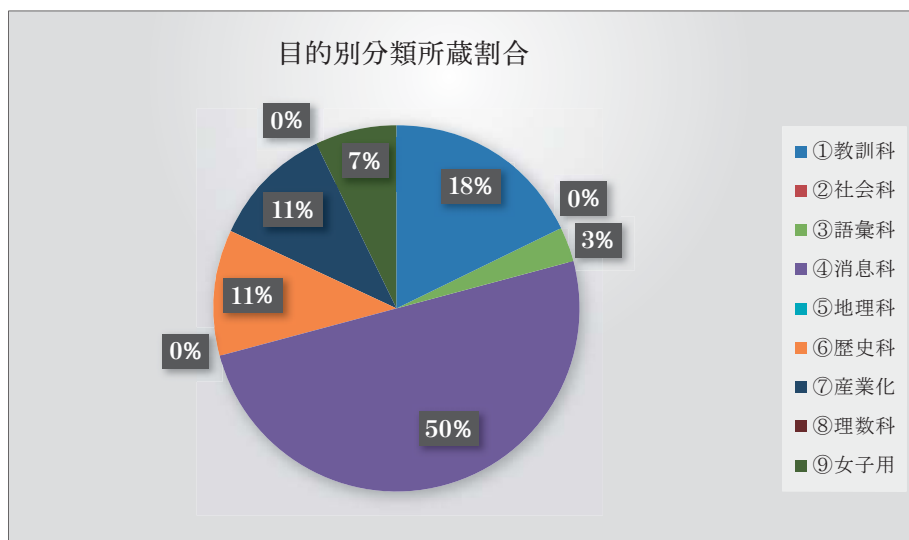
『年中用文章 上下』〈資料コード117452486〉〈資料コード117452494〉は、上巻の表紙裏中央に「増補 年中用文章」との題名と「皇都 福澤書房」とあり、下巻の裏表紙裏に「皇都 西川龍章堂」とある。しかし最終部分に「製作所 三条通御幸町角 吉野屋仁左衛門板」とあるため、江戸でなく京都の出版として分類した。

歴史科往来3本のうち、2本が京都の出版であった。『万宝古状揃大全』〈資料コード117469852〉は、裏表紙裏に「宝暦七年丁丑四月改正」「文化五年戊辰霜月再刻」と刊行時期の記述があり、続いて書誌についての記載があるが破損により判読不明であった。一部分、読むことが可能で「寺町松原 菊屋七郎兵衛」「菊屋嘉兵衛」とあり、「寺町松原」を根拠に京都と分類したものである。

『童宝古状揃』〈資料コード117468367〉は、裏表紙裏の最終部分に「京都寺町通松原上ル町西側 菊屋七郎兵衛板」とあり、京都の出版が確認できた。

教訓科往来として分類した『實語教童子教』〈資料コード110604354〉は、裏表紙裏の最終丁の9行目に「童子教終」とあり、その下に「京都松原 墨屋吉兵衛板」と記載が確認できた。

産業科往来である『諸職往来』〈資料コード



【グラフ2】

117502966) は、裏表紙裏に「京都寺町松原上ル西側 菊屋七兵衛新刻」とある。裏表紙には、直書きで「鳥根県因幡国八上部長瀬 塚本氏」と当該資料の由来も確認できる。前述の『童宝古状揃』と同じ版元であり、四角囲みの記載形式も同様であった。

次に大坂出版の資料について紹介する。教訓科往来に分類した『實語教童子教』(資料コード110604371) は、裏表紙裏の最終部分に「小野木氏書林軒」とあり、「大坂 上久寶寺町三丁目追手町 正本屋長四郎板」と記載が確認できる。

同じく教訓科往来の『童子往来万福宝蔵』(資料コード117496930) は、裏表紙裏の最終丁に「享保七年 寅三月吉日」とあり、「浪華書林 口順慶町 大黒屋喜左衛門 敦賀屋九兵衛 鳥飼市兵衛」と大坂出版が確認できる。

『商売往来』(資料コード117458003) は、題箋には「改正 商売往来」とある資料であり、刊行年は不明であるが、裏表紙裏に「書肆 大坂平野町御霊筋西入 天満屋安兵衛板」とある。これらの教訓科2本、産業科1本の計3本が大坂出版の資料に該当するものである。

以上のように鳥取県立図書館所蔵資料を出版地域別に分類してみると、最多は京都の10本であり、次いで江戸の6本、大阪の3本であり、残りの9本が出版地不明として整理した。

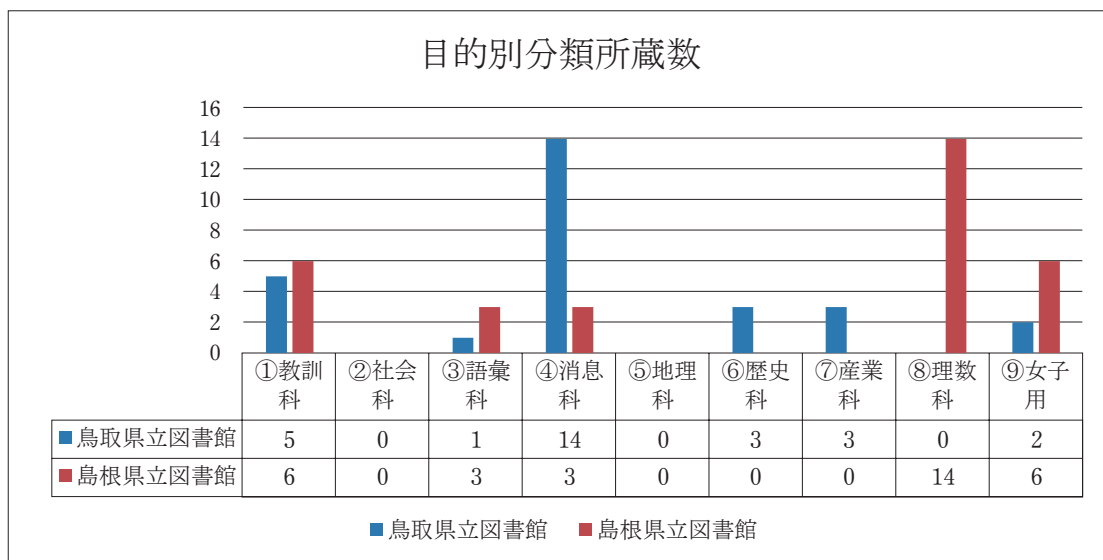
京都と大坂を合わせて関西圏とすると13本となり、江戸の6本の2倍以上という割合になるため、距離的に近い関西からの影響が大きかったことが予想される。しかしながら、それぞれの地域を分けて考える

と、江戸の出版は、大坂よりは多い。不明が9本存在することを合わせて考えてみると、必ずしも江戸文化圏からの影響が少ないわけではなかったといえるであろう。

このように出版地域別の分類では、総数28本のうち、江戸出版が6本で約21.4%、京都が10本で約35.7%、大坂が3本で約10.7%となり、不明が9本で約32.1%の割合であった。

参考として、隣県の鳥根県立図書館所蔵資料の出版地域別分類では、総資料32本のうち、江戸が10本、京都が3本、大阪が8本で不明が11本であった。数値で比較してみると、【グラフ4】で示すように、鳥取では、京都の出版が最多であり、大坂が最少であったが、鳥根では、江戸出版が最多で、京都が最少である。出版地域別の分類においては、その傾向が大きく違っており、地域性を考えるうえで興味深い調査結果といえるのではないだろうか。

石川と鳥根を比較した際には、距離的には関西圏に近いとはいえ、江戸の出版資料が比較的多い点で傾向が類似していた。近世期の後半になると、関西圏だけでなく、江戸での出版が隆盛する。距離的な影響だけでなく、出版文化の拡大や流通といった要因によるものとも考えられるであろう。今回の鳥取県立図書館における調査では、予想通り関西圏からの流入が大きかったことが明らかとなった。所蔵資料数が多くないため、本調査だけで傾向を図ることは慎重でなければならないが、本稿の調査結果は、地域特性を考える上で、重要な傍証の一つになり得ると思われる。



〔グラフ3〕

#### 4 まとめにかえて

鳥取県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要を報告した。和本のみの目録がなかったため、『鳥取県立図書館 和漢籍分類目録—鳥取県立鳥取図書館旧蔵—』<sup>1)</sup>『鳥取県立鳥取図書館 郷土資料目録 昭和54年3月31日現在』<sup>2)</sup>により調査し、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。加えて文献調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、28本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類してみると、教訓科往来が5本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来が1本、消息科往来が14本、地理科往来の所蔵がなく、歴史科往来が3本、産業科往来が3本、理数科往来の所蔵はなく、女子用往来が2本という結果であった。

出版地域別の分類では、江戸が6本、京都が10本、大坂が3本で、不明が9本という結果であった。地理的に近い関西圏からの流入が、京都と大坂、合わせて13本であった。江戸の6本と比較すると2倍以上であり、関西の特に京都からの出版流入が大きかったことは明らかであろう。ただ調査対象資料数や出版地域が不明の資料もあることを考え合わせると、江戸からの影響が小さかったとは必ずしもいえないと思われる。

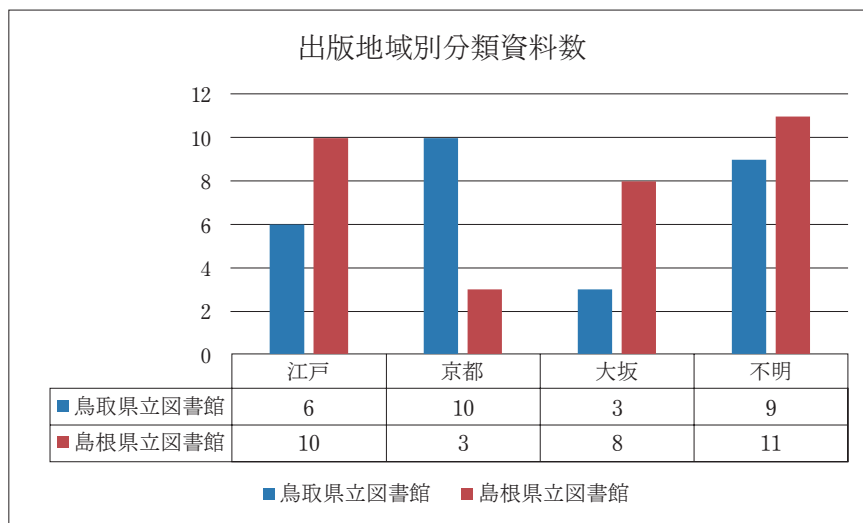
すでに公表している、島根県立図書館における所蔵資料との状況と比較してみると、目的別分類と出版地域別分類のそれぞれの点において相違していることも確認できた。隣県でありながら、地域特性の一側面を提示することができたといえるであろう。往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況

などを解明することを目的としているが、本稿は、島根に次ぐ山陰地域の調査地点であり、他地域の状況と比較する上で基盤となる調査の一報である。

従来、山陰地域の往来物資料は、『往来物解題辞典』にも記載が少なく、調査の空白地帯であった。紙幅の関係で資料紹介は別稿に譲るが、残された課題を引き続き検討することとしたい。

#### 注

- 1) 『鳥取県立図書館 和漢籍分類目録—鳥取県立鳥取図書館旧蔵—』(鳥取県立図書館、1998年)による。
- 2) 『鳥取県立鳥取図書館 郷土資料目録 昭和54年3月31日現在』(鳥取県立図書館、1980年)による。
- 3) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第1輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「往来物の「女ことば」について」(『関西文化研究叢書 10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月)、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月)、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月)、拙稿「『南都名所記』についての一考察—山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月)等参照。
- 4) 拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、拙



〔グラフ4〕

- 稿「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月)、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料—目的別分類からの考察—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月)、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について—往来物資料の出版地域からの検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察—弘前・酒田・山形との比較検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月)等参照。
- 5) 拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月)、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第115号、2016年3月)、拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物—横山家文書からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2017年10月)、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第119号、2018年3月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—目的別の観点から—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第120号、2018年10月)、拙稿「新潟県立図書館の往来物資料について—出版地域別の観点から—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第121号、2019年3月)、拙稿「石川県立図書館所蔵の往来物について—特殊文庫における調査報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第122号、2019年10月)等参照。
- 6) 拙稿「島根県立図書館所蔵の往来物資料について—目的別と出版地域別の分類整理—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第125号、2021年3月)等参照。
- 7) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)を参考とした。
- 8) 『国書総目録 第1～9巻』(岩波書店、1963～1976年)参照。
- 9) 『古典籍総合目録 第1～3巻』(岩波書店、1990年)参照。
- 10) 資料コードは鳥取県立図書館での分類No.である。同じ書名の資料が存在するため、資料コードも示した。

#### 【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力をご助力をいただいた、鳥取県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS KAKENHI (基盤研究 (C) 課題番号19K00620) の助成を受けた研究成果の一部です。

(2021. 7. 15 受理)